〈授業改善推進プラン　令和５年度第２学年　国語科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・小笠原村学力調査の平均正答率は 72.9％で全国平均(63.9％)を上回っている。しかし、「話すこと・聞くこと」の領域の「話し合いの内容を聞き取る」問題の正答率は 65･0％で全国平均(67.7％)を下回っている。

・設問の誤答状況を見ると、領域についての理解という点よりも、設問文の理解と解答の記法の点に要因があると考えられる。

【課題】

・問いに対する適切な表現で応答すること。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和３年度授業改善推進プラン記載内容

【課題】

・情報と情報との関係について理解し、文章の情報を理解すること。

・自分の意見とその理由を明確にして書くこと。

【具体的な授業改善策】

・既習学習の内容を復習する時間を設ける。

・グラフなどの資料を読み取る力を身に付けるために、資料からどんな情報が得られるか全体で確認、共有し、自分の考えをまとめるようにする。

・自分の意見をもたせるために、朝の回でニュースから思った自分の意見を発表する。

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・授業での教師の発問に対して、生徒が単語で解答したり不十分な内容で解答したりした場合は、解答の仕方が適切かどうかも含めて問い返すよう意識して指導に当たっている。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞	＜検証方法＞
①生徒との会話で、発問に対して単語で回答させず、相手に意図が伝わるような文章で回答させるように指導する。 **②生徒同士の話合い活動や情報共有の際に、意見と根拠が対応した内容になっているかを確認するよう指導する。**	❶授業での教師の発問に対する返答の内容が質問に正対している内容になったかどうかで検証する。 ❷発問への返答や作文などの課題で意見と根拠や情報と情報とを正しく対応させて陳述、叙述できているかどうかで検証する。

４．検証結果（成果と課題）【年度末に記入する】	**５．令和６年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】**
＜成果＞ ＜課題＞	・ ・

６．令和６年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン　令和５年度第２学年　社会科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・正答率 63.3%は、全国平均 51.2%に対して、12.1%上回っている。

・問題の内容「日本の姿」での正答率が 48.8%で、全国平均 46.3%と同程度で、他の内容と比べると若干低くなっている。

・村学力調査では、良好な成績を残すことができているものの、都の調査では社会科を得意とする生徒が 44.4%であり(※)、成績と生徒の実感とが結び付いていない点が課題である。

※「どちらかといえば得意」も含む。小笠原村全体での結果

・観点別は、知識・技能 63.3(51.2)、思考・判断・表現 63.3(51.2)、主体的に学習に取り組む態度 59.4(47.4)と、いずれの観点も大きく上回っている。(カッコ内は全国平均)

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和３年度授業改善推進プラン記載内容

・社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度を養う授業の推進
　既習学習を振り返り、学習したことを確認する。
　地図帳や統計などの基本的資料を用いて、根拠や理由を明確にして議論する力の定着を図る。

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・単元ごとに小テストを実施して、社会の基礎的な用語の定着を図っている。

・独自のワークシートを作成し、自ら調べて学ぶ機会を設けていてる。

・プレゼンテーションソフトや動画を活用して、興味関心が高まるようにしている。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞	＜検証方法＞
①関連する単元で、既習事項の振り返りを行い、既習事項の定着を図る。 ②定期的にニュースレポートを課し、学びと社会的事象とのつながりを実感させることで、生徒の自己有用感を高める。	❶定期考査で、既習事項に関する問題を出題し、正答率が 80%を超えるかどうか検証する。 ❷２学期の授業アンケートで、授業を「楽しい」と感じる生徒が 90%を超えるかどうかで検証する。

４．検証結果（成果と課題）【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

５．令和６年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

・

・

６．令和６年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン　令和５年度第２学年　数学科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・村学力調査において、「１次方程式」では全国平均 51.7%に対して校内の正答率 40.0%,
「データの分布の傾向」「データの活用」では全国平均 44.9%に対して校内の正答率 29.0%
と全国平均を大きく下回っている。

【課題】

・方程式やデータの活用における基礎基本の学習内容の徹底。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和３年度授業改善推進プラン記載内容

・既習事項の振り返りを多く設定し、四則計算の基礎学力の定着を図る。

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・基礎基本の計算を身に付けるために，課題等で演習を繰り返す。その後，計算問題のみの小テストを実施する。

・実際のデータを整理したり，データから読み取って分析したりする活動を取り入れ，実感を伴った理解をできるように授業を進める。

・既習の学習内容の復習の時間を授業内で取り，基礎基本の徹底を図る。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞	＜検証方法＞
①プリント課題で演習を繰り返した上で，計算コンテストを実施する。８０点以上を合格とし，合格者には簡易的な賞状を作成。	❶６～７月ごろを目処に連立方程式の計算コンテストを実施し，合格率６０％を達成する。
②実際のデータを利用して，データの分析を行う。	❷該当する章の章末テストで平均正答率６０％を達成する。

４．検証結果（成果と課題）【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

５．令和６年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

・

・

６．令和６年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン　令和５年度第２学年　理科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・自然の事物・現象についての理解が十分ではない。
・自然の事物・現象について科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が身についていない。
・観察、実験などを行い、科学的に探求する力が十分身についていない。
・自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探求しようとする態度が身についていない。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和３年度授業改善推進プラン記載内容

・すべての単元において、特に実験領域では、理科における学び方、問題解決型の学習習慣を身に付けさせ、結果から新たな疑問をもたせる終末にする。
・ＩＣＴ機器を使っての学習補充を行う。

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・OPP シートの活用。
・毎週行う重要語句の小テスト。
・実験のスライド発表。
・単元まとめテストの実施。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞	＜検証方法＞
①主体的に学習に取り組む態度を改善するために、自分の学習をふり返り、知識を整理することを目標に OPP シートの活用を行う。 **②知識・技能の定着させるために、重要語句の小テストを毎週行う。**	❶「どのような知識及び技能が身についたか」、「自分の考えがどのように変化したか」の記述が OPP シートに記述しているか。 ❷学期末の知識・技能の評価で A となる生徒が 50%以上となっているか。

４．検証結果（成果と課題）【年度末に記入する】	**５．令和６年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】**
＜成果＞ ＜課題＞	・ ・

６．令和６年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン　令和５年度第２学年　音楽科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

アンケートでは、「授業を受けることが楽しいと感じる」という項目に対する肯定的評価が 100%である一方で、「活動に積極的に参加できている」は、否定的意見が 5%存在した。１学期の活動内容や、平時の取り組み状況を鑑みると、生徒主体で活動する場面が少なく、能動的に学んでいるという感覚が得られなかったものと推察される。

【課題】互いに教え学び合いながら、生徒主体で活動できる力。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和３年度授業改善推進プラン記載内容

【課題】

・聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考える。

・自然で無理のない歌い方で歌う

・音符、休符や記号について理解する

・音色や響きに気を付けて楽器を演奏する。

【授業改善策】常時活動を系統的に工夫して行う授業の推進

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

【異学年交流の実施】２学年のみで練習を実施した後、１年生に教えることを目標とした、１・２年合同の授業を実施する（器楽分野）。教える事や面倒を見る事に進んで取り組み、意欲的に練習に臨んでいる様子が見られた。異学年交流の実施で、「自信をもてる」授業を目指す。

【ICT 機器の導入】本年度５月より、音楽室にモニター画面を設置した。実際に教師がお手本をして見せることの他に、視覚的な情報を積極的に与え、演奏のイメージをもてるようにする。また、２学期以降、各パート、各楽器の“お手本動画”をクラスルームに投稿し、生徒の学習端末から１人１人が視覚と聴覚を使って目標となる演奏を把握できるようにする。生徒自身が表現に意欲をもち、「音で表現できる」授業を目指す。

【音楽室の UD 化】授業の流れを板書したり、タイマーを用いたりして時間や活動を視覚化することで、見通しをもって授業に参加することができるようにする。また、教員の話に注意を向け、指示の聞き漏らしを減らすため、音楽室内の掲示物や設置物は最低限とする。教室の環境調整を通して、「集中が持続できる」授業を目指す。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞	＜検証方法＞
①目で「奏法や運指」を、耳で「音」を確認し、互いに教え合いながら練習できるようにする。 ②スモールステップで目標を記載した練習計画（全分野）や、1年生に教えることリスト（器楽分野）を作成し、明確な目標のもと練習できるようにする。	❶必要に応じて ICT 機器を活用できる環境を整え、生徒が目指す表現に繋げられるようにする。 ❷振り返りシートを用いて、目標に対する自身の達成度と、授業前後の変化を記入させ、変容を見とる。

４．検証結果（成果と課題）【年度末に記入する】	**５．令和６年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】**
＜成果＞ ＜課題＞	・

６．令和６年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン　令和５年度第２学年　美術科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・表現活動に対するモチベーションが上がらない生徒がいること。

・毎時間やっている振り返りを制作にうまく反映させることができていない。

・課題として「とりあえずやる」という段階から、思考し表現するという段階に到達できていない。

「授業を受けることが楽しいと感じられる」という項目で肯定的意見が 100％であったが、授業の様子を見ていると疑問を感じる部分はあるため。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和３年度授業改善推進プラン記載内容

・図画工作科の特に技能面においては、『わかる』から『できる』という一方的な視点だけではなく、『できる』から「『わかる』という学びのプロセスを体験することもある。『わかる』と『できる』が相互作用的に働いているという柔軟な視線を持ちながら、学習活動を計画したり、児童一人一人の取り組みに対応したりする。

・表しいものに合わせて材料や道具などの使い方の工夫する力をさらに高める。

・計画性や手順などを具多的に考えたり、アイデアを広げたりする力をさらに高める。

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・写真や動画資料の提示を多くして、表現や技法を感覚的に捉えることができるようにする。

・日常的に生徒の都合に合わせた補習を開講して、もっと作業がやりたい生徒のフォローをする。

・テスト前にも補習を行い、その学期の復習をして、生徒の得点力を高めるためのフォローをする。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞	＜検証方法＞
①個別指導を充実させ、それぞれの困難を理解する。	❶作品への現れ方を見る。
②振り返りをデジタル化し、制作と関連付ける。	❷作品への現れ方を見る。
③描き込むことで良くなった作品を取り上げて紹介する。	❸作品への現れ方を見る。

４．検証結果（成果と課題）【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

５．令和６年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

・

・

６．令和６年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン　令和５年度第２学年　保健体育科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・全生徒が、授業を受けることが「楽しい」と感じる授業を実践すること（20 人中 10 人）

・５教科を優先して、定期考査に臨む生徒が一定数いる。毎回の授業で専門用語などを授業中で活用しながら授業を進めていくこと。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和３年度授業改善推進プラン記載内容

【課題】

・ICT 機器を用いて、自己の課題を把握すること。

【改善策】

・ICT 機器を用いて、仲間や正しいフォームとの比較ができるようにすること。

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・ICT 機器を用いて、自己と仲間の動きを撮影することで、比較をしながら動きを振り返ること。

・各単元において、学習カードやワークシートを用いて、見通しをもって授業に臨むこと。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞	＜検証方法＞
①ICT 機器を用いて、自分の動きを把握し理想に近づく動きを習得すること。 **②学習カード等を用いて、生徒の躓きを把握し、個別または全体に共有すること。**	❶各単元で ICT 機器を用いて、自分の動きを振り返る時間を設定すること。 ❷学習カード等を点検する際に、躓きを把握する。さらに次時に活かすように教材を修正すること。

４．検証結果（成果と課題）【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

５．令和６年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

・

・

６．令和６年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン　令和５年度第２学年　技術科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・楽しく授業を受けることができているが、授業アンケートの「定期考査に向けた学習に取り組んだ」の項目について、「あてはまらない」「あまりあてはまらない」が合計で 25%であった。

【課題】

・知識や理論について意欲的に学習する態度が低い。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和３年度授業改善推進プラン記載内容

・関連する項目の記載なし。

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・知識や理論について意欲的に学習きる動画で説明する。

・動画を補足するためにプリント、板書、パワーポイントを利用する。

・プリントの練習問題を定期考査に活用する。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞	＜検証方法＞
①動画作成、提示、視聴し、プリントなどで補足をする。定期考査とプリントを連動する。	❶授業の最後にプリントを回収し、授業の理解度を確認する。定期考査のチェックをする。

４．検証結果（成果と課題）【年度末に記入する】	**５．令和６年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】**
＜成果＞ ＜課題＞	・ ・

６．令和６年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン　令和５年度第２学年　家庭科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・授業アンケートでは、「定期考査に向けた学習に取り組んだ」の項目で「あてはまらない」「あまりあてはまらない」が１４．８％となり、その理由が「他教科を優先した」「５教科を優先した」となっている。

・小学校段階の裁縫の技能が定着していない生徒が１割程度いる。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和３年度授業改善推進プラン記載内容

【課題】

裁縫や調理などの技術の定着と活用する力を身に付ける。

【改善策】

・学習した知識・技能について家庭実践レポートや家庭学習の機会を増やす。

・例や見本を見せたり他者の考えや作品に触れたりさせ支援していく。

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・学校で１度学んだ事を、家庭実践する機会を設けている。

・裁縫（手縫いの補修技術）の練習の時間を十分に確保している。

・実技テストの練習を家庭でするよう呼び掛けている。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞	＜検証方法＞
①家庭実践の機会を増やす。	❶洗濯やアイロンかけ、製作物の活用などにおいて、家庭実践の記録をさせ、生活に生かすための工夫や意欲を評価する。
②生徒の技能レベルを把握できるように技能テストを行う。	❷基本の技能テスト「並み縫い」「かがりぬい」「返し縫い」「まつり縫い」「ボタン付け」「ミシン操作」で行う。丁寧さ、適切さ、速さの基準を評価していく。

４．検証結果（成果と課題）【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

５．令和６年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

・

・

６．令和６年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン　令和５年度第２学年　英語科〉

１．「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・村の学力調査ではほぼすべての項目において全国平均と同程度であり、おおむね良好な状況である。
・領域では「書くこと」が 38.5%の正答率と全国平均 29.6%よりも高い値を示した。一方で、「さまざまな英文の読み取り」の項目では全国平均 47.6%に対して 41.3%と低い値となった。
・昨年度の村の学力調査との比較では標準スコアが「聞くこと」において３ポイントほど低下している。
・以上のことからアウトプットよりもインプットに課題があると考えられる。

２．課題改善に向けた取組状況

（１）令和３年度授業改善推進プラン記載内容

・該当生徒が小学校６年生だった小学校作成の令和３年度授業改善推進プランには「スモールトークで簡単な語句や基本的な表現について理解させ、身近で簡単な事柄を聞き取る技能の定着を図る。」、「外国語の背景にある文化の理解を深めるために、ALT との交流を通して文化の理解を深める。また、具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う機会を増やす。」とある。

（２）今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・単元の導入の際には文法事項等の説明の前に、音声のみ視聴、紙芝居形式の動画視聴、スキットの視聴とインプットを段階的に行うことで内容理解できるように工夫している。また、単元終了時には本文訳は配布せず大まかな意味を理解することに力を入れている。

３．課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞	＜検証方法＞
①ALT とのスモールトークは継続し、実際の英語表現に触れることでインプットの機会を多くつくる。	❶スモールトーク後や上記２．（２）での単元導入後に内容をどの程度理解しているかを確認する。
②教科書本文のリテリングをすることでインプットを前提としながら、英語力全体の向上を図る。	❷リテリングに関する確認やテストを行う。

４．検証結果（成果と課題）【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

５．令和６年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

・
・

６．令和６年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿【年度末に記入する】